

第 21 回 放送大学研究発表会

記念講演：「メディアと社会的リアリティの再帰性について」

講 師 放送大学北海道学習センター客員教員 鈴木 純 一 氏

【概 要】我々は世界や社会環境を「メディア（マスメディア、ネット、SNS 等を含む）」を通して認知します。むろん、常に「事実（＝真実？）」が伝えられているとは限りません。意図的な二重情報かもしれません。近年、このような疑念は極めて強く意識されるようになりました。ただし、このような疑念自体も、多くの場合、「メディア」を介して喚起されてきたものです。他方、思想史に目を向ければ、我々の生活の支えとなっている背景知＝「リアリティ」も、社会的に「構築」され共有されたものであると考えられるようになってきました。とはいえ、このような思想そのものも、やはり「構築」されたものと見なされることになります。「メディア」や「知」が本来もつ（もたざるをえない）このような再帰的特徴に今回は着目し、具体的かつ理論的に展開してみます。そして、変化しつつある現代メディア社会を考える際に、この観点からどのような視界が拓けてくるかについて、皆さんと一緒に探ることができれば、と考えています。



プロフィール

1959 年生まれ

本年 3 月まで北海道大学大学院メディア・コミュニケーション研究院特任教授。

専門はドイツ語圏を中心とする社会思想・美学・文学。

現在は放送大学北海道学習センター客員教員。北大名誉教授。

放送大学 研究発表（以下者）

発表 1 テーマ 「現代におけるアーバニズム論の展開について」

放送大学大学院文化科学研究科社会経営プログラム修士 熊 谷 寿 二 氏

発表 2 テーマ 「漢詩と公共空間—五日市学芸講談会の考察—」

放送大学教養学部 人間と文化コース 在学中

谷 口 玲 子 氏

日 時： 2025 年 **11 月 22 日** (土) 受付 12:30 開始 13:00-17:00

会 場：放送大学北海道学習センター 6F 大講義室

札幌市北区北 17 条西 8 丁目北大構内(地下鉄北 18 条駅から徒歩 10 分～15 分)

主 催：第 21 回放送大学研究発表会実行委員会 共 催：放送大学北海道学習センター

後 援：北海道教育委員会・札幌市教育委員会 参加費：無料、ハイブリッド開催

放送大学 研究発表 概要

発表 1 「現代におけるアーバニズム論の展開について」 熊谷 寿二 氏

【概 要】 ルイス・ワースが 1938 年に提起したアーバニズム論が 100 年近く経過した現代においてどのような意味を持つのか。都市があたりまえに存在する現代において、ワースが提起したアーバニズム論と、近年の新しい都市理論におけるアーバニズム論を比較し、現代の都市におけるアーバニズムの持つ意味について、英語圏の議論を中心に、惑星規模のプラネタリーな状況のなかで地域に現れる個性や多様性をアーバニズムとして捉える視点に注目し考察した。

発表者プロフィール

1957年 札幌市生まれ

1981年 東京都立大学卒業

2025年 放送大学大学院文化科学研究科社会経営プログラム修士課程修了

現 在 放送大学大学院文化科学研究科社会経営プログラム博士後期課程在籍中

発表 2 「漢詩と公共空間—五日市学芸講談会の考察—」 谷口 玲子 氏

【概 要】 自由民権運動とは、政治に参加する権利を求めて、明治時代の初めに国民が起こした民主主義運動であり、やがてそれは全国の農村に広がった。経済的余裕のあった農民層（豪農）は学習結社を立ち上げ、身分の分け隔てなく読書会や討論会、演説会をおこなった。明治専制政府を批判して下野した士族が始めた自由民権運動とは異なり、農民層（豪農）の自由民権運動は文化運動でもあった。本研究でとりあげた「五日市学芸講談会」も、神奈川県西多摩郡五日市(現在の東京都あきる野市)の豪農が中心となって設立した学習結社である。「五日市学芸講談会」のメンバーは、漢詩の造詣に深かった。幕末から明治という変革期を主体的に生きるうえで、慷慨の感情を漢詩で表現したのである。本研究では、「五日市学芸講談会」を自由民権運動の組織としてではなく、自由に議論しあう「公共空間」として捉え、そこに集ったメンバーの、教養としての「漢詩」と変革思想との関連性を明らかにした。

発表者プロフィール

東京都調布市出身

立教大学経済学部経済学科卒業

2019年10月1日全科履修生として放送大学に編入学

現在、人間と文化コース 在学中